

「ハエ釣り大会」地域に活気

大野川で開かれる「竹中ハエ釣り大会」は、三十数年間続く竹中地区の恒例イベントだ。主催するのは竹中ハエ釣り同好会。ここ数年は大会以外にも子供たちを対象にした催しを企画し、人気を集めている。

冬には、シイタケの菌をクヌギの木に埋め込む体験教室も開いている。

竹笛や水鉄砲を作る。この後のそうめん流しも好評という。



大野川沿いの丘陵地帯



竹中地区は一級河川・大野川沿いに広がる。川にはハエ（オイカワ）が生息しており、その釣果を競う大会は地域の目玉行事として定着した。

大野川左岸のゴルフ場と

川に挟まれた小高い丘（写真中央）。ここには「鏡城」があり、島津氏と大友氏が対峙（たいじ）した「豊薩合戦」（1586～87年）で、島津氏が友氏方の要衝・鶴賀城を攻めた際、豊臣秀吉が大友氏に送った援軍が着陣した地と伝えられている。

今、その遺構はない。この丘の南側に住宅地が広がる。中心部には商店も多かったが、徐々に減り、一帯では少子高齢化が進んでいる。

川沿いの県道からの眺めは良く、ウォーキングを楽しむ人の姿が見られる。

曹洞宗の寺院・勝光寺の南無住職（69）は、オリジナルソングに乗せて思いやりや絆の大切さを説く「出前

歌説法」が人気で、全国から講演の依頼が絶えない。歌手、南こうせつさんの実兄。6月には東日本大震災で被災した



歌声を披露する南住職

「出前歌説法」が人気

こうせつさん兄
勝光寺の南住職

宮城、岩手県を訪れ、避難所で被災者に語りかけた。

4人きょうだいの長男。幼い頃から音楽が好きだった。「一定のリズムで刻まれる木魚や、お経を聞いて育ったから素養が培われたのかも知れない」という。

大学では男声合唱団に入った。寺を継ぐことを望まれていたが、「決まったレールの上を歩きたくない」と、卒業後は東京で食品会社で就職。その後も音楽への情熱は冷めず、混声合唱団でタクトを振った。

1994年、副住職だった